

Residential Studio Project Award 2021

—第21回— 住宅課題賞 2021

建築系大学住宅課題優秀作品展



一般社団法人
東京建築士会
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、皆様に建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は21回目を迎えて、年々参加大学も増え、本年は40大学54学科の参加・出展の運びとなりました。

「住宅課題賞」は、関東圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、この中から公開審査により「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆様に、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解を一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クワッドをはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

何かと不自由な日々が続きますが、一日も早く穏やかな日々が訪れる事を心から願っております。

2021年10月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、令和2年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版(縦841mm×横594mm、厚さ5mm)レイアウトは縦使いに統一、1枚とする。

スチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。

大きさは敷地含め、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内とし、1点とする。

但し、縮尺と模型サイズ(敷地含む)が合わない場合は、規定サイズ内に収まる縮尺に調整してから搬入する。

※新型コロナウイルス感染防止対策として搬入及び搬出等、密にならないようタイムコントロールを行いますので、速やかに運ぶようご理解の上、協力していただけますようお願い申し上げます。

【 賞 】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点を選出する。

【審査方法】

今年の公開審査は新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン+対面のハイブリッド開催とする。審査は審査員、出展者および運営者のみで開催。

【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

審査員：アストリッド クライン(クライン ダイサム アーキテクト)

駒田 由香(駒田建築設計事務所)

妹島 和世(妹島和世建築設計事務所／SANAA／横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授)

中村 晃子(株式会社日建設計 設計部門 ディレクター)

司会進行：城戸崎 和佐(城戸崎和佐建築設計事務所／京都芸術大学教授)

佐々木 龍郎(東京建築士会理事／佐々木設計事務所／エネルギーまちづくり社)



01 「つながり」を創る 集合住宅

足利市では地方都市として便利な場所だが、都市の喧噪から離れてゆっくりと時間が流れる住環境を創ることを意図した。まず、公道側の外壁をハーフミラーとしてさらに樹木で囲うことによって、住宅の存在を消すことができ、自然の中で生活する環境を設けた。内部にパブリシティにおいてヒエラルキーのある外部空間を設け、各個人が家族として、共に住まう人として、生活を送ることができる空間を想定した。



渡辺 一輝 (わたなべ かずき) 足利大学

工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:藤谷 英孝、富田 和則、丸山 裕平、大野 隆司

指導教員名:中山 大輔、丸山 裕平、渡邊 美樹

教員推薦 コメント

近隣に公共施設が集まるエリア内に住宅を計画する課題である。ハーフミラーで公道との境界領域をつくり、木々で囲うことによって、公私の様々な段階の外部を形成しつつ住空間を確保している点を評価した。〔渡邊 美樹〕



02 茨城大学学生寮+国際交流施設建替計画 -Hitachi station dormitory-

駅近に位置する高低差6mのすり鉢状の敷地に建つ学生や教員家族のための住宅である。敷地前面の桜並木に呼応した「木の下には自然に人が集う」住まいをイメージした。隣接する駅や貨物線、工場群といった人工物とは対照的に、樹状の木軸架構の下には、敷地の高低差を吸収しながら共有スペースを設けることで、通りと住まいとが「これら」と立体的に重なりあう自然の温もりを表現した。



坂本 萌乃 (さかもと もえの) 茨城大学

工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:内藤 将俊

指導教員名:稲用 隆一

教員推薦 コメント

本作品は、やや殺伐とした敷地に残存する桜並木を取り込んだ覆いと斜面の重なりによって、課題設定に囚われない仕組みとイメージを内在させた力強さと、地域の現実にもルーズに向き合う柔軟さを獲得した秀作である。〔稲用 隆一〕



03 集まって住まう「街なか暮らし」

集合住宅の良さはなんといっても、人々が集まり生まれる「交流」である。街に出かければ、カフェに行ったりレストランに行ったり、時にはコンサートなんかも。人は様々な「交流」から温もりを感じることができる。そんな「交流」を体験できる集合住宅を考えた。



木村 友哉 (きむら ともや) 宇都宮大学

地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:大嶽 陽徳

指導教員名:慶野 正司

教員推薦 コメント

カラフルな小さな住戸を、まちと連続した緩やかな勾配の地盤の上に、高さをずらしながら配置することで、宇都宮市の中心市街地に表情豊かな集合住宅が設計されている点が高く評価されました。〔大嶽 陽徳〕



04 併用住宅の設計

まずL型を建物のベースとした。そこへ凹凸を加え、それぞれの部分を活かすことを心がけた。目黒川沿いの地域コミュニティが育めるようなコモンスペースへという思いから、1階店舗はアートギャラリー型コミュニティーカフェを計画した。都市の中でも豊かな緑を感じられ、隣を流れる目黒川や都市公園内の区民農園とは一体になるよう意識し、多様な人々に愛される空間を演出している。



小幡 美奈 (おばた みな) 大妻女子大学

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:柳 秀夫、八木 敦司

指導教員名:柳 秀夫、八木 敦司

教員推薦 コメント

ギャラリーカフェ併用住宅。大きなL字型のプランに凹凸を付加した平面計画は、特徴的な小空間をつくりだすことに寄与し、その外観は目黒川沿いの街並みにもよいアクセントを与えるだろう。〔八木 敦司〕



05 30人が暮らし、30人が泊まれる、この先の暮らしの場

全国から人が集う横浜には、上京した学生や地方の魅力を発信したい人など多様な人々が集まる。グリッドの“あき”を活用し、多彩な活動を誘発することで、近い感覚を持つ人々が互いに支え合いながら暮らせる場を提案する。更に、まちの顔となるような親水空間を設けることで観光客や地域住民を呼び込み、住人との繋がりを生むことで、地方の魅力が都会に染み渡っていく事を期待する。



伊東 珠見 (いとう たまみ) 神奈川大学

工学部 建築学科 建築デザインコース / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:曾我部 昌史、吉岡 寛之、岡村 晶義、佐々木 龍郎、渡瀬 正記

指導教員名:曾我部 昌史

教員推薦 コメント

特徴的な暮らしの場を創出することを期待した。周辺環境の特性を分析し、この先の新たな暮らし方を想像し、小さな街のような空間を立体化している。同時に身体スケールでの細やかな配慮がされていることも評価した。〔曾我部 昌史〕



06 人とその伴侶のための家

伴侶は崖。傾斜は斜めの大地。大地は起伏にとみ、雨は下へと流れ、植物は自由に繁殖する。崖地に家をつくることで、自然が人間の暮らしに入り込む。大地が行為を誘発し、雨は家の中に溜まり、そして流れる。植物は家に絡みつき空間をつくる。自然環境と人間の関わり合いが問われるこの時代において、私たち人間のためだけではない、人間・自然・生物・植物が同等にある家を提案する。



佐藤 香絵 (さとう かえ) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:粕谷 淳司

指導教員名:粕谷 淳司、小形 徹、三浦 秀彦、村山 徹

教員推薦 コメント

「崖」を伴侶とし、人間が崖と共存することを問うた作品。崖は斜めの大地である、と捉えた瞬間におこるさまざまな建築的事象は、これまで気づけなかった、住むこと、生きることのプリミティブな発見がある。〔村山 徹〕



07 商業地域に建つ集合住宅

洞は人々の生活を優しく包み込むと同時に、様々なところに枝分かれし、つながっていく。人々の生活の中心となる「家」の重なりによって洞をつくる。洞の中では商業と住居が混ざり合い、その営みが洞の中へと開かれていく。商業により人々が訪れ、洞を巡りながら、洞での様々な暮らしに触れる。商業と住人、住人と訪れた人々、様々な交流が生まれ、商業と公共と「家」はつながっていく。



植松 駿 (うえまつ しゅん) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:柳澤 潤

指導教員名:柳澤 潤

教員推薦 コメント

本課題の意図は横浜駅周辺商業地域に集合住宅を織り交ぜていかに“新しい住まい方”を提案するか、であり、植松君の作品はプライベート、パブリックという二項対立を超えて commons としてのあり方を提示している。〔柳澤 潤〕



08 終の住処—2世帯住宅—

団地の2戸1化の改修。壁面上部を枠なし欄間とし、視線の抜け方、用途の異なる7種の引き戸を活用することで効果的に空間を仕切っている。家具を壁面やPSのラインに納め、建具と家具の高さも統一することでスッキリとした印象を持たせる。欄間、引き戸、家具の納まりに着目し、閉鎖的な空間になりがちな団地に開放感を演出する提案である。



後藤 柚実香 (ごとう ゆみか) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:堀 啓二、山下 幸助、工藤 良子

指導教員名:山下 幸助、工藤 良子

教員推薦 コメント

集合住宅で隣合う住居の二世帯住宅へのリノベーション課題である。住居間の耐震壁の開口制限や水廻りの制約条件を与えられるなか、欄間、引戸を使い水平ラインを意識し、空間的に伸びやかに解いた作品である。〔山下 幸助〕



09 デザインスタジオA(住まいと環境)

子供たちの成長とともに成長を遂げる家。北側に広がる美しい梅林からの「つながり」を持たせながらも、プライバシーに配慮したグラデーションを創る。木造のサードスペースに用いたルーバーや梁の現しによって外部の自然との統一感、経年による風合いの変化を生み出す。人と人、人と自然、人と家を「つなぐ」空間。マイレア邸分析から得た、アールトのサード・サーバント・中間領域の空間の持つ意味の違いを意識して設計を行った。



北りり華 (きたりりか) 慶應義塾大学

環境情報学部／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:坂 茂

指導教員名:坂 茂、原野 泰典、城所 竜太

教員推薦 コメント

近代の名作と呼ばれる住宅を分析し、その過程で明らかになったコンセプトや幾何学的な構成を用い、藤沢市を敷地とした住宅の提案を求めます。ルヴァーアールのマイレア邸をテーマにした北さんの提案は、住宅街の角地という敷地のなかで、公園への眺望が期待できる北面に木造のサードスペース、南側にサーヴァントスペースを設け、それらをうまく中間領域でつなぐ案が評価されました。〔坂 茂〕



10 工学院大学八王子国際留学生寮

この課題の敷地は大学と住宅地の間にあり、また様々な国の留学生のための寮であることに注目し、大学と住宅のスケール、大学生と留学生と住民、さらに留学生同士をつなぐ寮とした。部屋をつなぐ切妻屋根は周囲の住宅と馴染みつつ、連続した屋根が大学正門から目を引く。また、個室どうしに屋根がかかっていることで共有スペースが生まれ、交流の場となっている。



馬渡 初音 (まわたり はつね) 工学院大学

建築学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:檜原 徹 指導教員名:西森 陸雄、遠藤 新、初田 香成、川嶋 貫介、木島 千嘉、齊川 拓未、高濱 史子、西久保 殺人、前田 道雄

教員推薦 コメント

留学生のための寮施設の計画。日本人学生との交流と、地域社会との交流という2つの機能を、施設の雁行配置でできる空間を使ってうまく実現している。切妻の優しい表情が母国を離れた留学生達に安心感を与えてくれる。〔西森 陸雄〕



11 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

集合住宅におけるパブリックとプライベートの距離を等しく近づける。管理されたパブリックでは外から来た人も混じり合い関係性が生まれていく。効率や利便性を求めて集まるのではなく、他人との関わり合いが好きなのための集合住宅を設計した。オンライン化が進む中で自分が誰かとの繋がりの中にいることを実感できることが、これからの集合住宅に求められていくのではないだろうか。



佐藤 大河 (さとう たいか) 工学院大学

建築学部 建築デザイン学科／4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:西森 陸雄 指導教員名:西森 陸雄、伊藤 博之、藤木 隆明、星 卓志、カーニー マイケル、アラン・バーデン、飯山 千里、戸室 太一

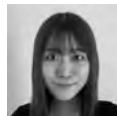
教員推薦 コメント

敷地全体を半層掘り下げて口の字型に配置した建物で中庭を囲い取り、そこに子供達の遊び場を計画した。上層階に住居、中間階にコミュニティ施設を配置することでプライバシーを確保しながら施設の利便性を高めている。〔西森 陸雄〕



12 外のある家

姿ははっきりとわからないが、桜や光や人の存在が感じられる。直接外を見る家だとプライバシーを守れないのではないかと思い、間接的に外を内に取り込む家を考えた。まず、敷地を三角に仕切って外の存在をすりガラス越しに取り込む。そして、壁や床、天井に使用するアルミ板で室内に反射させる。時間帯や季節によって室内の様子がうつり変わる、多様な可能性を秘めた暮らしを提案する。



河村 恵里 (かわむら えり) 工学院大学

建築学部 まちづくり学科／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:富永 祥子 指導教員名:木下 庸子、藤木 隆明、篠沢 健太、市川 竜吾、岩堀 未来、萱沼 宏記、高呂 卓志、高濱 史子、原田 智章、安田 博道

教員推薦 コメント

敷地形状にヒントを得た三角形をモジュールとした平面構成の提案である。半透明のガラス越しに感じる「外」が、床、壁、天井に映り込むことで間接的に内部に取り込まれ、万華鏡のような住環境を創出している。〔木下 庸子〕



13 公園のとなりの家

この敷地は公園に面しているものの、借景に望ましい公園ではなかった。しかし、公園を囲む樹木は立派なもので、敷地に覆い被さる勢いで枝葉を伸ばしている。そのためこの住宅では、公園全体からではなく、敷地境界に立ち並ぶ樹木から恩恵を受け、樹木が生み出す木陰の中、くつろぐことのできる中庭型のデッキや、子供達が走り回る屋上のある住宅を設計した。



植田 朝飛 (うえた あさひ) 国土館大学

理工学部 理工学科 建築学系 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:南 泰裕、鈴木 丈晴

指導教員名:植 美雪、杉山 久哉、鈴木 丈晴、蔵菜 友美、高橋 元氣、南 泰裕

教員推薦 コメント

植田くんの案は、中央を貫くスロープを通して、公園と道路、及び中庭的なテラスを立体的に巧みに繋いでいます。その、高低差を上手く利用したシームレスな空間計画と、内部空間に呼応したファサードデザインが評価されました。〔南 泰裕〕



14 ダガヤサンドウに住むとしたら

集まって住む良さとは、その場から生まれるコミュニティや空間、時間を共有できる点だと思う。そこで、住宅地であり、賑わいがあるダガヤサンドウに暮らしのこだわりを感じられる集合住宅を提案する。外部空間を通してコミュニケーションを取ることができ、それぞれの暮らしを共有できるようにした。また、森林のような有機的な形状にし、周辺地域、地域住民と調和した空間を目指した。



山本 智絵 (やまき ちえ) 駒沢女子大学

人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

指導教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

教員推薦 コメント

生活の楽しい部分(趣味空間)を垣間見ることができる「小さな中庭」から成る集合住宅である。細胞組織のような平面と多様な内外の関係性が、周辺への圧迫感を抑える陰影ある造形として立ち現れる点も魅力的である。〔田中 昭成〕



15 開く家

開く家というテーマから、まちに開き、地域の人が気軽に集まることのできる住宅を計画する。計画地の南側に面する公園には遊具がなく、平面的であることに着目し、住宅は立体的に構成する。子供が自由に走り回り、遊び場となるような設計とした。地域住民が集まり、他愛ない会話をする事で住民同士の距離が縮まり、生活が豊かになることを期待する。



森下 空々 (もりした らら) 静岡理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:長尾 亜子

指導教員名:長尾 亜子、田井 幹夫、彌田 徹、後藤 周平

教員推薦 コメント

伸びやかな軒下空間が立体的に展開し、屋根の重なり方の変化で様々な質の空間が生まれている。同時に奥行き深い庇、バルコニーが周囲の視線を調整するなど、新しい「開く家」の可能性を見せてくれた作品である。〔後藤 周平〕



16 まちに開いたシェアハウス

商店街の活気と、墓地の閑静な空気の双方に接したシェアハウスは、豊かな交流や発想の生まれる潮目となりうる。この考えを起点に、地域の持つ二面的な価値をシェアハウス内で同様に共存・融合させていく空間構成を練った。交流や共有、プライベートや生活行為のように人間も二面的である。地域や人の二面性を、風情に通じる日本家屋の形式に落とし込み融合するような設計を目指した。



川口 真穂 (かわぐち まほ) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 APコース / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:猪熊 純

指導教員名:谷口 大造

教員推薦 コメント

川口真穂さんは、シェアハウスの根源的な課題である地域との関係、居住者同士の関係などの二面性に対して明快で丁寧な分析を試みている。個から全体を俯瞰する視野の広さと物事の本質を追求する姿勢を評価したい。〔谷口 大造〕



17 地域と交換する集合住宅～もらい・あたえる恒常的地域をつくる～

集合住宅とは私生活に他人の存在が近づきやすく住人は住宅内に生活感を閉ざしやすい。自分の生活圏にどれだけ他人が干渉できるかを部分的に住宅に閉じて場所にメリハリをつくることで、逆に住宅の外側に生活感が広がり、住人同士の魅力的な場所をつくりやすくする。下町である佃の路地という特徴的な空間に住宅の生活が滲み出し、隣接する川を感じやすい集合住宅を設計した。



長谷川 奈菜 (はせがわ なな) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 SAコース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:原田 真宏

指導教員名:堀越 英嗣、田中 厚子

教員推薦
コメント

外壁を構成する正方形ユニットとコンクリートの門型フレームを組み合わせ、そのズレによって多様な内外空間を創出している。川風を意識し、佃の特徴である路地空間を継承した点も評価した。〔堀越 英嗣、田中 厚子〕



18 辰巳の30戸集合住宅 断面で設計する

外部に花壇や日陰といった憩いはあるが、老朽化してしまった辰巳団地において、nLDKの先にある暮らし方を探った。水平性と垂直性をもつユニットを組み合わせることで、室面に囚われることのない多様な暮らし方のできる未来に向けた集合住宅を目指した。それらのユニットからなる外観はこの地域の象徴となり、複雑に計算された動線計画により団地周辺の人流を活性化させることにもなる。



笹本 直也 (ささもと なおや) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 UAコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:小堀 芳秀

指導教員名:井坂 幸恵

教員推薦
コメント

辰巳団地の文脈読解の上で未来像を描き、構築的なシステムからランドマークとなり得る明快なフォルムへと昇華させた。初回から一貫したアイデアを半端ない作業量とへこたれない精神で成し遂げた素晴らしい一言! 〔井坂 幸恵〕



19 「商店長屋」―商店街に暮らす―

東京にいと日々忙しく過ぎ、ただ通るだけの道も多いように思う。駅に近い商店街のこの敷地の前の通りも例外ではない。そこで傾斜のある壁で人々を誘い込み、U字のスロープ状の画廊で絡めとって、訪れた人が空間を味わえるような建築を提案する。暮らしとしては壁や床だけでなく、商店を通して長屋に住む他の住人との空間の共有を図った。



野口 莉佳 (のぐち りか) 昭和女子大学

環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:杉浦 久子、森田 祥子、御手洗 龍、田井 勝馬

指導教員名:田井 勝馬

教員推薦
コメント

兎角、人との関わりが希薄な昨今。何気なく暮らしている地域や場、通り過ぎる日常生活にフォーカスを当て、そこで生活する人達の新たな暮らし方や関わり方への様々な可能性を見つけ出した秀逸な作品として推薦します。〔田井 勝馬〕



20 集合住宅計画

文化交流が多層に展開する吉祥寺に集合住宅を提案する。2019年以降、生活は大きく変化し、人は孤独感や退屈さを感じつつ日々を過ごしている。人々の交流や集団生活を支えるためにフレームで囲んだユニットを五つ組み合わせ、一つのユニットは複数の家族で構成される。その関係性から豊かな人間関係が生まれ、外の世界に繋がらなくても存在できる小さな都市となるのではないだろうか。



陳 柯宇 (ちん こう) 女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:下田 倫子

指導教員名:下田 倫子

教員推薦
コメント

各住棟を囲む大きなフレームが特徴的な計画である。フレームは共用部分として回廊、庭、縁側となって住民を繋ぐ場を提供し、集まって住む風景の中に隣接する公園の自然を巧みに取り込む視覚的な役割も持っている。〔下田 倫子〕



21 《風景の中の住空間》～くつろげる週末住宅～

東京で働く建築家夫妻の為の週末住宅。庭からボーダーレスに繋がる石床は室内と戸外を有機的に結びつけ、庭とリビングが一体となる。南東面の広い開口からは鍾水の自然を取り込み、気候に合わせて2層の建具で外部との環境や距離を調節することで、鍾水の自然とうまく付き合っていく、自然と共に暮らしたいという建築家夫妻の要望に応え、外部と内部がひとつづきとなる住居を計画した。



伊藤 龍生 (いとう りゅうせい) 多摩美術大学

美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース／2年

課題出題時学年:1年

出題教員名:田淵 諭

指導教員名:田淵 諭、米谷 ひろし、湯澤 幸子、木田 裕子

教員推薦 コメント

この住宅は自然豊かな環境の中で、住み方とかたちをデザインに昇華する提案が求められた。住宅外周に設けられた格子戸が、採光・通風・眺望・プライバシー等の点で機能とデザインが一体となっている点を評価した。〔田淵 諭〕



22 MAD City House

松戸市に流れる坂川沿いに、大きな水槽を持つ住宅を提案する。私の魚が好きだという個人的な趣味を街に開放することで、街とのつながりを持ちつつも良い距離感を保つ。室内では各所から見られる水槽の断片によって、趣味を全身で楽しめる家となる。屋外からも見られる東面の大水槽は、外部からの視線を程よく遮りつつも、リビングを囲み、内外で異なった水槽体験が行われる。



山田 楓子 (やまだ ふうこ) 千葉大学

工学部 総合工学科 都市環境システムコース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:大川 信行、皆川 拓、丁 志映

指導教員名:大川 信行、皆川 拓、丁 志映

教員推薦 コメント

住宅は常に住み手の嗜好性を伴うが、本作品はまさに作者の「水(水槽)が好き」という思いを大胆に住空間に取り込んでいる。水槽が連続する空間は美しく、かつ地域にも良い繋がりを与える、優れた提案である。〔大川 信行〕



23 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計

「集まること」のベクトルを敷地内だけでなく街にも向けることで街の中の集合住宅、集合住宅の中の街といったように曖昧になりながらも両者をつなぐ役割を持つ「道」的なたまり場が生まれ、視線の抜けや交差による出会いで人と人との間を豊かにする。世代を問わず誰ものよりどころになるような街のリビング的要素を兼ね合わせた集合住宅。



皆川 莉久 (みなかわ りく) 千葉工業大学

創造工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:石原 健也 指導教員名:遠藤 政樹、田島 則行、多田 修二、石原 健也、伊藤 孝仁、佐々木 珠穂、武田 清明、村田 龍馬

教員推薦 コメント

この作品は、敷地をデザインしています。開放された大地が起点となって新しい街に平面的な広がりをつくっています。これまでの広場や路地の街とも違って、そこに人の目線の高さが大切に考えられています。〔遠藤 政樹〕



24 都心の住宅地に建つ50年後のヴィンテージマンション

この作品は、建築の性質を決定づける空間と空間の繋がりに着目した集合住宅のデザインである。従来の単一グリッド構造に対し、住居や共用部は上下左右に自在に広がり、空間同士の新たな関係性を構築する。建物を貫く赤いパイプシャフトを基軸として、目標空間に至る経路は何通りもある。この回遊性のある移動経路は、住人の探索心を満たし、空間の繋がりが方々を楽しむ暮らしを可能にする。



長井 春雅 くらら (ながい はるか くらら) 筑波大学

芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:花里 俊廣

指導教員名:花里 俊廣

教員推薦 コメント

長井さんは、この作品を20世紀初頭のデスティルを意識して設計したという。この建築運動を振り返ると、建築家ではなくP-モントリアンが精神的な支柱となっていたのはよく知られた事実である。それは、一つには、デスティルの領域が、平面のコンポジションなどに限られていたことが大きいとされる。当時のオランダの建築家の多くが手をつけているものの、それを解き形にするのは実力が相当でなくてはならない。現代も同様である。〔花里 俊廣〕



25 自然と建築 自然公園のとなりに建つ住宅

人の場所を囲うのではなく、自然を囲み、囲むことによって生まれた余白に人が住みこむように考えた。自然は木を用いることで、屋根となり、常緑樹と落葉樹の違いから、季節によって居場所などが移り変わっていく。自然(木)があるから、人が住める空間になり、居場所も生まれる。



木村 友香 (きむら ゆか) 東海大学

工学部 建築学科 / 3年

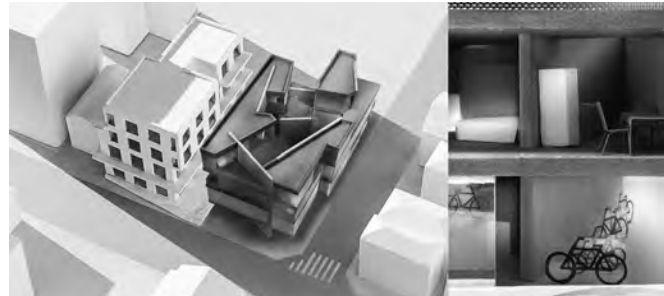
課題出題時学年:3年

出題教員名:武田 清明

指導教員名:武田 清明

教員推薦
コメント

人だけでなく、植物という他生物も受け入れようと試みた家。植物を、単なる添景・賑やかとしてではなく、人の住空間を構成するための“生きたエレメント”としてとらえ、自然がたっぷりす豊かさ、恵みを日々実感できる暮らしを生みだそうとしている。〔武田 清明〕



27 西葛西アパートメント3

私たちは無意識のうちに壁を頼りにモノの居場所を決めている。西葛西の街にも自転車車が壁に沿って止められたごく普通の風景がある。この集合住宅では、すべてのフロアを貫くための「壁」とさまざまなモノとの関係が現れる。1階は自転車屋の店舗、2～4階は各住戸であり、ななめの「壁」は入りくんだ空間をゆるやかに繋ぐ。賑わいとそれぞれの日常の重奏空間を提案する。



長谷 果奈 (ながたに かな) 東京藝術大学

美術学部 建築科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:駒田 由香、櫻村 美実

指導教員名:駒田 由香、櫻村 美実

教員推薦
コメント

ななめの「壁」を頼りに人々が集まり、暮らし、周辺とも繋がっていく、そんな空間を鮮やかに描き出し、静かながら他を圧倒していました。沢山の条件の元で、自分のアイディアを着実に・丁寧に形にした秀作です。〔櫻村 美実〕



26 多摩 NT 豊ヶ丘・貝取団地一部再生計画

住まい手の多様化する団地において、壁式構造の改築により玄関先や街角で立ち話をするようなコミュニティの在り方を目指した。自在に曲がりつつ住棟を進み廊下は広くなった部分や袋小路、分岐などを持ち、住人の出会う場となる。蛇行した廊下は離れと建具の操作によって生活の場へと組み込まれる。住戸と廊下、私と公の関わり方を設計することで画一性を脱し奥行きのある団地が生まれた。



上條 陽斗 (かみじょう はると) 東京大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:大月 敏雄 指導教員名:大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨンゴン、川嶋 貫介、千葉 元生、原田 麻魚、松島 潤平

教員推薦
コメント

本提案は、昭和40年代に都市型公共集合住宅として大量に建設された5階建2戸1階室型住棟において、壁式構造の壁位置の操作によって、上層階においても多様な魅力的な廊下空間を創出できることを証明している。〔大月 敏雄〕



28 集合住宅の設計

新型コロナウイルスのため、同じ場所での長居が制限され、街から滞在できる空間が消えた。計画地の港区北青山の建物群は、右廻りに低、中、高層であり、この渦を建物ボリウム、回遊動線において取り込むことを考えた。この建築では強制的に長居を禁止するのではなく、滞在したくなる居心地の良い場所を多数用意し動線が結び、視線や光、影、風により回遊と滞在を誘発する空間を提案する。



吉川 武仁 (よしかわ たけと) 東京電機大学

未来科学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:山田 あすか

指導教員名:井上 康

教員推薦
コメント

計画地周辺の建物ボリウム構成を読み取り、計画建物も同様の構成とし、周辺を含めた中心にまとめた高木の緑地を設けるという都市的な視座、光・風を大切に扱い人のふるまいを想定する空間のつくり方、よく考えられている秀作である。〔井上 康〕



29 共生の里を作る

この集合住宅は建物の「壁」を使って人と人の「壁」を壊すことを提案する。各住戸の壁の間に動線を作ることで様々な道・オープンスペースができ、ヒルサイドテラス周辺の特徴である回遊性を気の向くままに旅する漫遊性として取り入れ、人と人の予期せぬ出会いを同時多発的に生む。また、住戸内には様々な高さのスラブを壁に挿すことで家族間のコミュニケーションを誘発させる。



薄井 実乃里 (うすいみのり) 東京都市大学

建築都市デザイン学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 手塚 貴晴

指導教員名: 石田 有作

教員推薦
コメント

森の共生を都市との共生へと見事に読み替えた作品である。プライバシーが必要以上に強調され、公共は個人の関わる範疇ではないと認識されている日本に置いて、この作品は秀作であろうと思う。〔手塚 貴晴〕



30 名作から考える

名作住宅から考えたのは設計手法ではなく、人にとっての家とは何か。名作住宅の過去と現在を比べることで家具と家の調和がその空間を長く愛情深いものにすると考えた。家と家具が一体となり調和した空間が、これまで疑うことのなかった感覚を呼び起こす。椅子とは何か、机とは何か、床とは…。曖昧に定義された空間が、自身の身体と感覚の成長の中で徐々に輪郭を成していく。



小林 楓太 (こばやしふうた) 東京都立大学

都市環境学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 富永 大毅、三井 嶺、小泉 雅生、伊藤 喜彦

指導教員名: 富永 大毅、伊藤 喜彦

教員推薦
コメント

例年参照住宅から自分なりの仮説を見付け、設計を掘下げる力を身に付けてもらう狙いの課題。一見シンプルな外形の住宅の、内外や機能的境界を横断する家具を挿入することで、空を解体して再構築する試みを評価した。〔富永 大毅〕



31 根津に住む

音。家々の中の生活と地域の営みとが垂直・直線的に交錯する現代の根津の街角では、コモンとプライベートが不調和に混在する。両者をホール空間を介して見え隠れさせ水平・曲線的につなぐことで、都市生活の不協和音からの転調を図る。そして、家族間や人・地域間のコモンとプライベートとを共存させながら、街角に人・家族・地域による新たな協和音を響かせていく。



丸山 周 (まるやま あまね) 東京理科大学

工学部 建築学科 / 2年

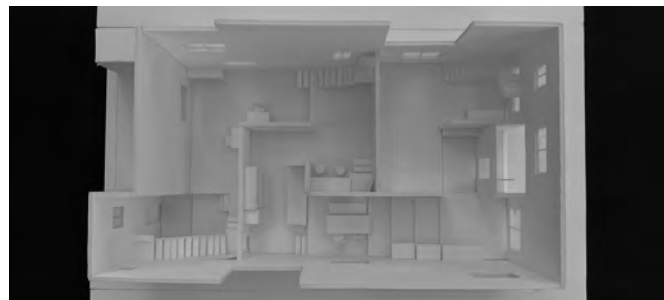
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 池田 雪絵、石橋 敦之、伊藤 孝仁、船木 幸子、峯田 建、熊谷 亮平

指導教員名: 船木 幸子

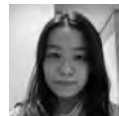
教員推薦
コメント

楽器奏者が小さな音楽ホールに住むという提案。ホールは階段、ホワイエはゲストルーム、楽屋は寝室と置き換えられます。その空間性、音楽のある住空間が根津の一角を変え得る可能性を高く評価します。〔船木 幸子〕



32 私の住まう将来の住宅

敷地は千葉県柏市の住宅街の中にあり、東西を住宅に挟まれた北斜面になっている。柏市は裏道が多く、高低差がある街でこの2つの特徴から2点間を移動する時にいくつものルートが生まれ、状況に応じて道を選びながら街で暮らすことができる。この特性を住宅に取り込み、高低差のある敷地で、一つながりの空間を大通り、壁を通り抜けるドアを裏道とすることで選ぶ暮らしを設計した。



安藤 朋恵 (あんどう ともえ) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 岩岡 竜夫

指導教員名: 堀越 一希

教員推薦
コメント

彼女は、北側斜面かつ東西を住宅に囲まれた厳しい敷地環境を選んだ。周囲との関係性が見出しづらいからこそ、都市構造を内包するかのようなスケールの「街路」と「抜け道」によって住宅が形成されている点が面白い。〔堀越 一希〕



33 不純な住宅

都内に佇む住宅は内に様々な問題を抱えている。これは、複雑な人間関係を内包する住まいに対し、現代社会の様々な問題点を危惧した計画である。一階では店や図書、地域に開いた経済圏を組み立て、上層階につれて壁による空間はと発展させる。家族間と地域への繋がり企てる。そして空間の隙間には緑を導入させ、内外の隔たりを緩和することで解決の糸口を模索するものである。



前田 仁 (まえだ じん) 東洋大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 篠崎 正彦

指導教員名: 鹿内 健

教員推薦
コメント

痛ましいニュースは建築とは関係無いのでしょうか？もしかしら建築も作り出してしまった社会の歪みを、建築で解きほぐせないか？前田君の挑戦した住宅は社会問題まで届く射程を備えており推薦に値する提案です。〔鹿内 健〕



34 独立住宅(3世代1世帯)の設計

物理的に持続可能なだけの住宅は、人間のための住まいとは言えない。新築の設計から30年を経た改修までを検討し、変化していく家族のカタチや住宅の在り方を模索した。タテヨコを立体的に巡る空間構成は、駄菓子屋へ遊びに来る子供たちの好奇心をくすぐる。複雑にぐるりと絡み合う路地を中心に、各々の色を持った4つの休憩所を設けることで、「空間を楽しむ」感覚を体験させる。



諸橋 菜奈 (もろはし かなな) 東洋大学

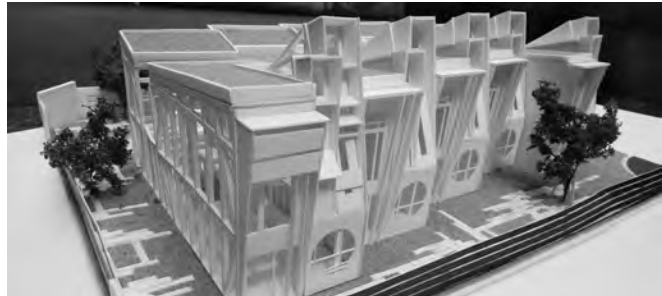
ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 内田 祥士、名取 発、柏樹 良、仲 綾子 指導教員名: 内田 祥士、名取 発、柏樹 良、仲 綾子、小林 進一、井上 見良、窪川 勝哉、佐々木 龍郎、船木 幸子

教員推薦
コメント

本作品は、30年後を想定した改修にあたり、平面的にも断面的にも外部空間を取り込んだ「路地空間」を住宅に挿入し、テラス等の半屋外空間と重層的に構成して、まちに開いた住宅を実現している点が優れている。〔仲 綾子〕



35 これからの集合住宅

近年、深刻化している環境問題に対する建築における対策、取り組みとして芝屋根の木造集合住宅を提案しました。木材の利用、芝屋根の採用を重要視した理由は「循環型資源としての活用」、「炭素の貯蔵」、「建設・製造時のCO₂排出量が少ないこと」、「室内の調湿能力」などといった点からRC造、SRC造、S造よりも地球環境に対して優れていると判断したからです。



内野 慎也 (うち の しんや) 日本大学

芸術学部 デザイン学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 東 利恵

指導教員名: 東 利恵、若原 一貴

教員推薦
コメント

コロナ禍の生活様式の変化だけでなく、マクロな環境問題を数値的な資料を使いながら提起し、木造、緑化屋根、風の抜けなど、シンプルな解答を使いながらもデザインでその特徴を表現しているところを評価した。〔東 利恵〕



36 街に開く集住体——神楽坂の集合住宅

これまで、ハコのなかで生活することが合理的であるとされていた。だがコロナという生命の危機にさらされた今、ハコのなかは窮屈になり、ハコは適度に開放するべきということを学んだ。そこで私は、まちへ開くための住み開きをしやすい環境を建築に落とし込んだ。



工藤 秀俊 (くどう ひでとし) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 北野 幸樹

指導教員名: 小島 広行

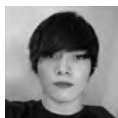
教員推薦
コメント

作品は視覚的・動線的に周辺環境との接点を最大限に活かした構成となっており、地域社会との共生・融合を可能にしている。様々なプログラムが、集合住宅として多様性があり現代社会の集まって住む意味合いを強く感じさせてくれる。〔小島 広行〕



37 8mキューブの空間

古くから日本の住宅に使われてきた白銀比を8m×8m×8mの空間に落とし込んだ。スラブを分けるグリッド、スラブ同士の高低差を身体スケールに合わせて効率的に空間を作り上げた。



大槻 瑞巴 (おおつき みずは) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 篠崎 健一、長沖 充、泉 幸甫

指導教員名: 篠崎 健一、長沖 充

教員推薦
コメント

比例を使って秩序を構成する案は例年あるが、なかでも無理なくのびやかに空間を構成している。抽象に留まらず、身体スケールも比例に取り込むことで、リアルな空間を具体的に構成している。表現も洗練されている。〔篠崎 健一〕



38 SKELETON&INFILL

近年、在宅勤務が可能となったが、仕事と家庭生活が混同しやすいという問題がある。壁と床で構成されたインフィル部分がレール上を移動し、入れ子に重なる事で空間を分けたり繋げたりする。日々住人の生活にとって最適な間取りに変化させ、ワークライフバランスを保つ、自由な住み方を提案する。また、移動により住民同士で広場や道を作ること、人・住宅・街の関係を構築していく。



山本 有紗 (やまもと ありさ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 3年

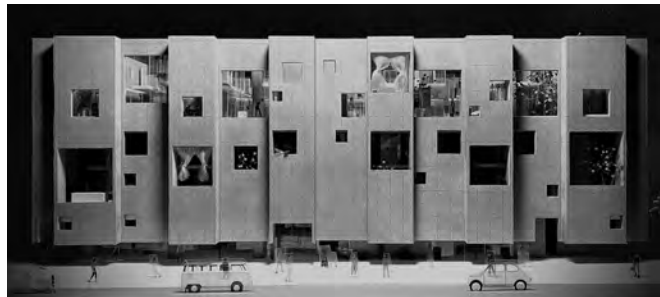
課題出題時学年: 3年

出題教員名: 渡邊 康、鍋島 千恵

指導教員名: 渡邊 康、鍋島 千恵

教員推薦
コメント

多様性の生まれるインフラとなるスケルトンを構想してその様々なインフィルも提案する課題で、レールの上を平行移動するスケルトンに着目し、昼と夜、平日と休日、季節によって移動する変化と可能性を提案している。〔渡邊 康〕



39 代官山コンプレックス

横文彦による代官山建築には我々を迎え入れようとする手法が施されている。しかし私は恐れ多さを感じた。この手法と心情の矛盾こそが代官山の豊かさだと考えた。これには現代の個人主義的な来訪者と、集団主義的なかつての住人の関係が密接しており、本設計ではこうした矛盾を取り除くのではなく、あえて不自由さを与え、まるでブルータリズムを感じる恐れ多くも憧れる建築を提案する。



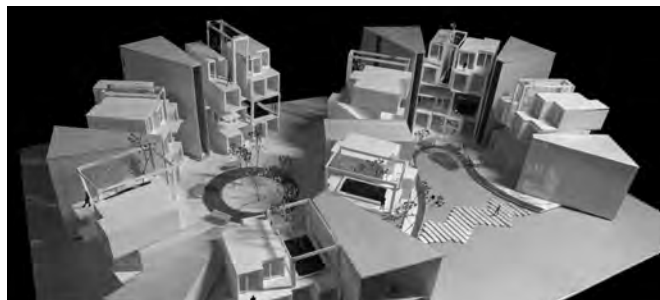
大塚 友貴 (おおつか ゆうき) 日本大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年 出題教員名: 雨宮 知彦、今村 雅樹、内部 美玲、木島 千嘉、小泉 雅生、佐藤 光彦、高橋 堅、塚田 修大、富永 大毅、野島 秀仁、飛田 幸作、廣部 剛司、古澤 大輔、寶神 尚史、水野吉樹、山中 新太郎 指導教員名: 古澤 大輔

教員推薦
コメント

巨大な外周壁は一見すると閉鎖的な印象を受けるだろう。しかし、その一方、驚くべき開放性が発露している。光は影があるからこそ認知できるのと同様、開放と閉鎖は同居しうることを、この提案は気付かせてくれる。建築の「力」を信じるこの作者を高く評価したい。〔古澤 大輔〕



40 水と共に生きる集合住宅

コロナ禍によって、在宅勤務が普及し、オフィスに集まる習慣が衰退した。これは大きなコミュニティの衰退を意味する。そこで住空間をコミュニティ化させ、新たに人と繋がる場を設けるために「白箱と木箱」を提案する。白箱は個人の空間で、従来の集合住宅にあるプライバシー性を担保する。木箱はみんなで共有するLDKを包括していて、人とのつながりを生み出す。



松井 良太 (まつい りょうた) 日本大学

理工学部 海洋建築工学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 金子 太亮、勝又 洋

指導教員名: 勝又 洋

教員推薦
コメント

人々の価値観が揺らぎ、家族の形態が変容する社会背景を捉え、都市から切り離された私的な住空間ではなく、多様な生活を楽しむ都市と水辺空間を融和する場づくりが、シェアハウスの進化を予感させる作品である。〔勝又 洋〕



41 アタラシイ村 価値観の異なる者たちの場の創造

川沿いの細長い敷地に料理や食事を通して地域の人と交流する小さな村を提案する。住戸を隙間なく隣接させるのではなく地域の人と使用するシェアキッチンや渡り廊下で住戸同士をつなぐことで、村全体が時間によってにぎわったり、落ち着いた空間に変化する。住戸の軸方向の違いや渡り廊下のレベル差が目に見える川の風景に変化をもたらし、村の動線全てが人々の交流の場となるように考えた。



秋間 悠希 (あきま ゆうき) 日本工業大学

建築学部 建築学科 建築コース／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:西本 真一、平 宏明、渡邊 高宏

指導教員名:西本 真一、平 宏明、渡邊 高宏

教員推薦
コメント

歴史ある大落古利根川のためとに長く伸びる場所が選ばれ、家々を不規則に並べながら全体の楽しい使い勝手を熟考した案です。昼夜で活動が変わり、それらが対岸からも眺めとして映えるように工夫が重ねられました。〔西本 真一〕



42 シェアハウスの設計

家全体を大きな箱がずれながら組み合わせつつひとつの共有空間とし、その一部に小さな箱を入れ子状に組み込むことで住民の個人空間を確保した。また、デッキやキッチンや作業場、1階部分の多くは公園・通り道としてまちに開くことで、地域の人々との交流が生まれる。どこにいても住民や地域の人々がお互いに存在を感じ合うことができる、一繋がりである繋がりなシェアハウスを提案する。



鈴木 晴香 (すずき はるか) 日本工業大学

建築学部 建築学科 生活環境デザインコース／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:足立 真、麻生 征太郎

指導教員名:足立 真、麻生 征太郎

教員推薦
コメント

外から内へ、公から私へと連続しつつ変化する空間の関係を上手く作り出しており、ダイナミックでありながら細部の設えまで目が行き届いた設計により、居住環境のシェアという課題に対する爽快な提案となっている。〔足立 真〕



43 新しい都市居住のための集合を考える

敷地は東京都多摩市永山の一角。ニュータウンとして開発されたこの地を、都市と郊外の中間と捉える。外部の環境を曖昧に私的づける「郊外の庭」と、人々が集うことで公的領域を居場所とする「都市の路地」とが混ざり合う本計画は、その寛容さから、地域住民の日常にも+αのときをつくり出す。住空間と連続した外的な余白空間は、室内に自然環境や周辺での活動の様子を淡く伝える。



岩城 瑛里加 (いわしろ えりか) 日本女子大学

家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:片山 伸也、定行 まり子、江尻 憲泰、東 利恵、稲垣 淳哉、武田 清

明、針谷 将史 指導教員名:針谷 将史

教員推薦
コメント

都市と郊外の中間地点における、新しい時代の暮らし方とコンスベースの提案。「私」である庭と、「公」の路地が溶け合って多義的な中間領域を生み出している点を評価した。開くか閉じるかの選択ではなく、他者との距離の取り方がよりグラデーションになった時代に対応する空間の質を生み出す、高度な提案である。〔針谷 将史〕



44 都市部に建つ戸建住宅

2階建の建物を2分割して生まれた4つの空間に、生活と仕事の場をバラバラに配置した。建物間には、敷地に対して斜めに通り庭を設け、隣接する公園や道路と緩やかにつながる。それぞれの棟を行き来することで、外の気配を感じ気持ちの切り替えができるようにした。コロナ禍で外出が減り在宅ワークが増えた現在、住宅内での公私の使い分けや街との繋がりを意識する住まいを目指した。



渡部 怜 (わたなべ れい) 文化学園大学

造形学部 建築・インテリア学科／2年

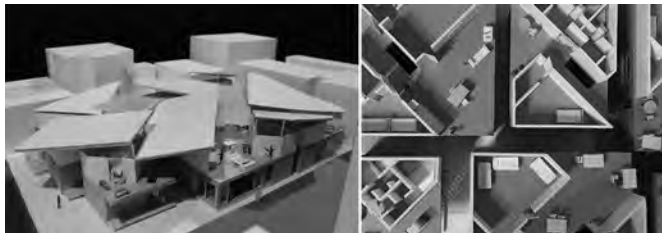
課題出題時学年:2年

出題教員名:谷口 久美子、高橋 正樹、久木 章江、渡邊 裕子、種田 元晴、井上

裕子 指導教員名:渡邊 裕子

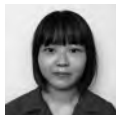
教員推薦
コメント

住宅内に会社や学校等の社会的要素が介在する時代に、敷地の対角線上に建物を2分割する街の通り道(視覚的・心理的開放)を設け、適度なプライバシーを保つつつ街と住まいを緩やかに繋いでいる点が評価される。〔渡邊 裕子〕



45 デザインスタジオ5 集合住宅

東急池上線池上駅から歩いて5分ほどのところにある久松温泉は、昭和30年の開業以来地域の人に愛されてきた。その久松温泉にも受け継がれていた、鎌倉・室町時代から見られる「風呂ふるまい」という文化を継承する集合住宅を提案する。この集合住宅を拠点にして風呂ふるまいが街全体に広がり、地域コミュニティが活性化することを期待する。



小林 日向子 (こばやし ひなこ) 法政大学

デザイン工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:御手洗 龍、下吹越 武人、山道 拓人、津野 恵美子

指導教員名:御手洗 龍、山道 拓人

教員推薦
コメント

「風呂ふるまい」に着目し、風呂を起点としたネットワークを地域に作るユニークな提案。風呂ふるまいが導く人々や建築の愉しげな振る舞いが、町並みを緩やかに更新し、温泉地のようなホットな居場所を作り出す。(山道 拓人)



46 [ポストコロナ]の前橋中心市街地に建つ集合住宅

計画地が位置する商店街は、南傾斜の坂にかかる勾配に沿った断続的なアーケードが特徴である。その構成によって中は薄暗くなり、今では賑わいのない地方の典型的なシャッター商店街となっている。提案する集合住宅は、都市的なスキマを建築的に表現しているが、総体として複合的な長屋のようになる。コロナによって見出された「離れていても繋がっている」という可能性の可視化を目指す。



島 かのん (しま かのん) 前橋工科大学

工学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、青木 弘

指導教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、青木 弘

教員推薦
コメント

「ポストコロナの新たな環境」という喫緊のテーマに真摯に向き合った結果、「ごちゃごちゃ」とした建築に行き着いた。傾斜のあるアーケードが特徴的な「シャッター商店街」の場に、勾配のある屋根形状の「通り」が縦横無尽に巡る。小さなスケールと固有のサイズ感のとても風通しの良い生活拠点が提示された。(若松 均)



47 仕事場のある住まい

ここに暮らすのは絵本作家です。絵本作家は、絵本の読み聞かせや絵画教室を開き地域とつながります。そのため、住宅は地域の人が立ち寄りやすい空間であるべきだと考えました。イベントを開くことで地域との関係が生まれていき、絆が結ばれます。半層下がったリビングから庭が広がって見える空間となっており、室内で交流した時に広く感じる空間となっています。



齋藤 樹李 (さいとう じゅり) 前橋工科大学

工学部 総合デザイン工学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:進士 茶織

指導教員名:駒田 剛司

教員推薦
コメント

2人のクリエイターのための住宅。角地であることを活かし、自然に人が集まったり、通り抜けたりする公共的な場所を生み出している。極めてシンプルで小規模な住宅が、周囲の景色を一変させる力を持つことを評価した。(駒田 剛司)



48 個人と社会の接点としての住まい

1つの大きな住宅を用途ごとの小さな部屋に分解し、社会・住宅・人々に新しい繋がり生まれるような集合住宅を提案。住宅を分解することで境界が壁1枚だけでなく外部空間も設けられ、空間や人々がより緩やかに繋がる。また町なかのレストランなどの施設が住まいの延長となる。住宅が敷地内だけで完結するのではなく、都市を巻き込む大きな家となる。



中島 詩歩 (なかじま しほ) 武蔵野大学

工学部 建築デザイン学科 / 3年

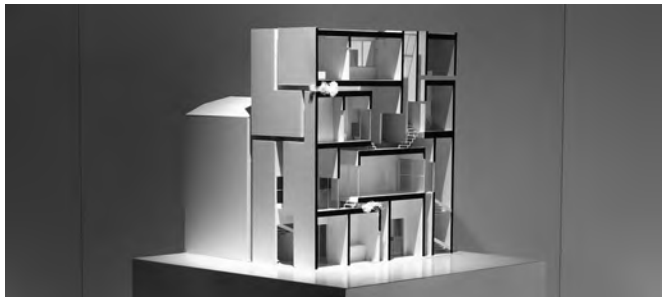
課題出題時学年:3年

出題教員名:伊藤 泰彦、大塚 聡、岡田 雅人、松尾 宙、市川 竜吾

指導教員名:伊藤 泰彦、大塚 聡、岡田 雅人、松尾 宙、市川 竜吾

教員推薦
コメント

個人・集団・地域・社会と住まいの関係性に対する課題の問いに対し、この提案は住まいを解体して社会の縮図として再構築を目指したように見えます。同時に、地域全体を住まいに見立てる可能性を感じ評価しました。(伊藤 泰彦)



49 敷地選択型 住宅プロジェクトー住宅+αの新しい可能性を提案するー

街並みが孕む多様な文脈の観察から、潜在的な界限性を建築する。敷地は東京都唯一消滅可能性都市に選定されている豊島区。東長崎駅前に蔓延する木密地域の一角を選定し、各住戸が纏う様々なスケールの隙間を中心にトリミングを行う。街並みに溢れる環境がそうであるように、それぞれのヴォリュームが隙間や通路を奪いあうように空間をせめぎ合いながら複雑に絡まり、居場所を創生する。



高嶋 佳樹 (たかしま よしき) 武蔵野美術大学

造形学部 建築学科 / 4年

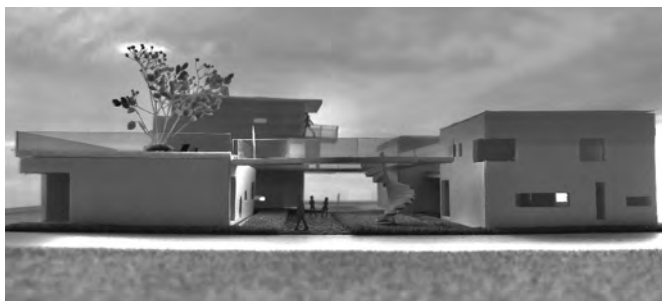
課題出題時学年: 3年

出題教員名: 布施 茂

指導教員名: 布施 茂、三幣 順一、青木 弘司

教員推薦
コメント

「敷地選択型住宅プロジェクト」の課題に対して、豊島区の木造住宅密集地域の現状から街の隙間に着目し、その「隙間」を対象化した観察をポジティブに捉えることで建築の新しい可能性を提示した秀逸な作品である。〔布施 茂〕



50 今日の共用住宅(シェア住居)

年齢や性別、暮らし方も違う高齢者、シングルマザー、単身者、4人家族の4世帯を対象者とした集合住宅の提案。この4世帯にはそれぞれが持つ課題があり、その課題を4世帯で補い合うことはもちろん近年薄れつつある近所付き合いなどを積極的に行えるよう計画。それぞれが密接につながるのではなく、「ちょうどいい距離」を目指し、様々なつながりを感じながら生活できる空間にした。



中村 咲貴 (なかむら さき) 明海大学

不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 鈴木 陽子、塚原 光顕

指導教員名: 鈴木 陽子、塚原 光顕

教員推薦
コメント

高齢者、シングルマザー、単身者がコミュニティを作り易くするため、中庭に向かい合うように住宅を計画しています。中庭を中心に、家族の様な関係になることのできる住環境を作りだしている所を高く評価しました。〔塚原 光顕〕



51 多様な国籍の学生が混住する学生寮

寮に住みたくない私が住むとしたら、という想いで設計をした。多様な国籍の大学院生が、適度な距離感で過ごす。個人と大人数のための居場所ではなく、個人と少人数のため居場所を単純なグリッドで構成された壁で多様に生み出す。視線はゆるく遮られているがどこか気配は感じられるような居心地のいい空間とし、使用用途を定めず、ここに住まう院生が自ら空間を色付けていくことを想定する。



服部 友香 (はっとりともか) 明治大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 青井 哲人 指導教員名: 青井 哲人、山本 俊哉、田中 友章、高橋 潤、大村 洋平、土屋 辰之助、菅原 大輔、萬玉 直子、湯 景亮

教員推薦
コメント

この学生寮の中庭は全体性の象徴ではなく個室間に距離をつくる装置。そのうえで腰壁や垂れ壁、片持ち壁による緩やかな分節が個人や少人数の居場所を生み出す。孤立させず、共同性を押付けない新しい集住形式の提案。〔高橋 潤〕



52 更新する学生寮

学生寮とは学生生活の基盤となり、多くの経験を積む場である。そこで建築を通して学生の発想力を助長する寮を計画する。ものづくり大学は木造実習に力を入れているが、学生が扱うのは、加工された木材で、樹木に触れる機会が少ない。そこで寮を学内の森林を計画地とし、自然を取り込むのと同時に、室内空間を外に開放することにより、自然との調和を図り、学生の環境への理解を深める。



浦上 龍兵 (うらかみりゅうへい) ものづくり大学

技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 岡田 公彦

指導教員名: 岡田 公彦、朽木 宏、今井 弘

教員推薦
コメント

面による構造壁と、住人が改修可能な曲面による非構造壁を分け、どこまでも延長していけるような平面を作りだしている。シンプルでありながら学生の生活を受け止める、迷路のような多様性を生み出したことが評価された。〔岡田 公彦〕



53 自然のなかの居住単位

新潟県の森のなかにある斜面。動物たちが巣を作るように、人間たちも森のなかで森の木々を使って自分たちが生活するための場所をつくり出していく。北側の一点を地に接した、めくれ上がったような一枚の大屋根と地面の間で、柱に絡みあう室を少しずつずらしながら連続させる。ここに住まう家族が新潟の森の美しさ、優しさ、難しさ、強さを感じながら森と共に豊かに暮らせる場を考えた。



柳澤 美佳 (やなぎさわ みか) 横浜国立大学

都市科学部 建築学科 / 3年

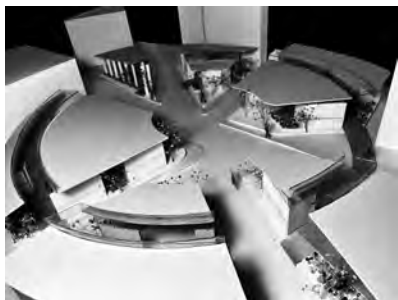
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 藤原 徹平

指導教員名: 藤原 徹平、富永 美保、萬代 基介

教員推薦
コメント

この作品は、鳥の巣のように原初的な形態をしている一方で、断面や平面は丁寧につくられています。繊細さと大胆さが入り交じり、粗削りながら一度見たら忘れない不思議な魅力を発している建築になっています。〔藤原 徹平〕



54 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい -Activate Waseda-

同じ早稲田の街で異なる学問を学ぶ学生たちの1日が、家と学校との単純な往復に留まることなく、街全体を舞台に学びを深められるようでありたい。特徴的な六差路の形状を活用した、多様なセミパブリック空間を孕む学生寮の集合体を起点とし、交流の場を街全体へと広げていく。不特定多数の人が利用する交差点では、学生同士に限らない、幅広い年齢層の近隣住民も巻き込む交流も考慮する。



國松 六花 (くにまつ りっか) 早稲田大学

創造理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 有賀 隆

指導教員名: 矢口 哲也

教員推薦
コメント

六差路の隣地に最小限の私的空間をパッチワーク状に配置する計画である。これにより、住民同士、そして近隣住民との交流の場となる多様な半公共空間をつくり出している。不整形な敷地を統合する造形力を評価したい。〔矢口 哲也〕

第21回 住宅課題賞2021 建築系大学住宅課題優秀作品展

主 催: 一般社団法人 東京建築士会
企 画: 東京建築士会 事業委員会
後 援: 公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
特別協賛・作品集発行: 株式会社 総合資格
会場構成: 濱野 裕司(株式会社 竹中工務店)
協 力: 公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]

企画・編集: 鴛海浩康、梅津洋佑 / 一般社団法人 東京建築士会

デザイン・制作: 株式会社 ケシオン

発 行: 一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階

[T E L] 03-3527-3100 (代) [F A X] 03-3527-3101

[E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp

[U R L] <https://www.tokyokenchikushikai.or.jp>

© 一般社団法人 東京建築士会 2021

バスルームを自由にデザインする



東京バススタイルの オーダーデザイン ユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様の要望に応じてお造りしています

介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



大型浴室や機械式浴槽設置も可能です。



Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階(建物右側の外階段より2階へお上がりください)

【営業時間】10:30~18:00【定休日】日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net

総合資格学院は 「今」最も合格者を輩出している スクールです

1級建築士試験

全国
合格者
占有率

No.1

令和2年度
1級建築士 学科+設計製図試験

ストレート
合格者
占有率
60.8%

全国ストレート合格者1,809名中/
当学院当年度受講生1,099名

(令和2年12月25日現在)

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に沿って掲載しております。※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。※学科・製図ストレート合格者とは、令和2年度1級建築士学科試験に合格し、令和2年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

令和2年度
1級建築士 設計製図試験

合格者
占有率
53.8%

全国合格者3,796名中/
当学院当年度受講生2,041名

(令和2年12月25日現在)

令和3年度
1級建築士 学科試験

合格者
占有率
45.6%

全国合格者4,832名中/
当学院当年度受講生2,202名

(令和3年4月7日現在)

令和2年度 1級建築士 設計製図試験 卒業学校別実績

下記学校卒業生当学院占有率

58.4%

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の
およそ6割は当学院当年度受講生!

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計 2,263名中/
当学院当年度受講生合計 1,322名 (令和2年12月25日現在)

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率
日本大学	162	99	61.1%	大阪工業大学	55	34	61.8%	金沢工業大学	35	16	45.7%	北海道大学	27	13	48.1%
東京理科大学	141	81	57.4%	東京都市大学	52	33	63.5%	名古屋大学	35	22	62.9%	新潟大学	26	18	69.2%
芝浦工業大学	119	73	61.3%	京都工芸繊維大学	49	23	46.9%	東京大学	34	16	47.1%	愛知工業大学	25	17	68.0%
早稲田大学	88	51	58.0%	関西大学	46	32	69.6%	神奈川大学	33	22	66.7%	中央工学校	25	12	48.0%
近畿大学	70	45	64.3%	熊本大学	42	23	54.8%	立命館大学	33	25	75.8%	京都建築大学校	23	19	82.6%
法政大学	69	45	65.2%	大阪市立大学	42	22	52.4%	武庫川女子大学	32	21	65.6%	武庫川女子大学	23	13	56.5%
九州大学	67	37	55.2%	東京工業大学	42	17	40.5%	横浜国立大学	31	15	48.4%	大分大学	21	12	57.1%
工学院大学	67	31	46.3%	名城大学	42	27	64.3%	千葉工業大学	31	19	61.3%	慶応義塾大学	20	9	45.0%
名古屋工業大学	65	38	58.5%	東京電機大学	41	25	61.0%	三重大学	30	16	53.3%	日本女子大学	20	11	55.0%
千葉大学	62	41	66.1%	広島大学	38	29	76.3%	信州大学	30	16	53.3%				
明治大学	62	41	66.1%	東北大学	38	26	68.4%	東海大学	30	16	53.3%				
神戸大学	58	27	46.6%	東洋大学	37	24	64.9%	鹿児島大学	27	18	66.7%				
京都大学	55	28	50.9%	大阪大学	36	13	36.1%	福井大学	27	11	40.7%				



総合資格navi

建設業界特化型!!

建設関係の資格スクールとしてトップを走り続ける総合資格学院による、建築学生向けの就活支援サイト。
長年業界で培ったノウハウとネットワークを活かして、さまざまな情報やサービスを提供していきます。



QRコードから簡単アクセス!

<https://www.arc-career.shikaku.co.jp/2023/>



総合資格学院

東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL 03-3340-2810

☎03-3340-2810 www.shikaku.co.jp ☎03-3340-2810 www.sogoshikaku.co.jp

Twitter = @shikaku_sogo | LINE = 総合資格学院 | Facebook = 総合資格学院 | 検索!



法定講習

一級・二級・木造 建築士定期講習

管理建築士講習

第一種電気工事士定期講習

監理技術者講習

宅建登録講習

宅建登録実務講習

講座
一覧

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

1級・2級 建築士

建築設備士

1級・2級 建築士

宅地建物取引士

1級・2級 建築士

賃貸不動産
経営管理士

1級 建築士

インテリア
コーディネーター

住宅課題賞 2021参加大学(学校数:40大学/54学科)

- | | |
|--|--|
| 01. 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース | 28. 東京電機大学 未来科学部 建築学科 |
| 02. 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム | 29. 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科 |
| 03. 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 | 30. 東京都立大学 都市環境学部 建築学科 |
| 04. 大妻女子大学 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻 | 31. 東京理科大学 工学部 建築学科 |
| 05. 神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース | 32. 東京理科大学 理工学部 建築学科 |
| 06. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース | 33. 東洋大学 理工学部 建築学科 |
| 07. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース | 34. 東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 |
| 08. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース | 35. 日本大学 芸術学部 デザイン学科 |
| 09. 慶應義塾大学 環境情報学部 | 36. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース |
| 10. 工学院大学 建築学部 建築学科 | 37. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース |
| 11. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 | 38. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース |
| 12. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 | 39. 日本大学 理工学部 建築学科 |
| 13. 国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系 | 40. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科 |
| 14. 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース | 41. 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース |
| 15. 静岡理工科大学 理工学部 建築学科 | 42. 日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース |
| 16. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 AP コース | 43. 日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻 |
| 17. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SA コース | 44. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 |
| 18. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UA コース | 45. 法政大学 デザイン工学部 建築学科 |
| 19. 昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース | 46. 前橋工科大学 工学部 建築学科 |
| 20. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 | 47. 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科 |
| 21. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース | 48. 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 |
| 22. 千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース | 49. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科 |
| 23. 千葉工業大学 創造工学部 建築学科 | 50. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース |
| 24. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 | 51. 明治大学 理工学部 建築学科 |
| 25. 東海大学 工学部 建築学科 | 52. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース |
| 26. 東京大学 工学部 建築学科 | 53. 横浜国立大学 都市科学部 建築学科 |
| 27. 東京藝術大学 美術学部 建築科 | 54. 早稲田大学 創造理工学部 建築学科 |

—第21回— 住宅課題賞 2021 建築系大学住宅課題優秀作品展

【開催日時】

2021年10月28日(木)~11月10日(水)

10:00~17:30

土曜・日曜・祝日休館(10月30日(土)は休館となります)

【会場】

ギャラリー エー クワッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店1F

<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4